

研究会新歓2023夏 企画書

2023年5月

湘南自治会

文責:主幹担当者 副島哲

背景

SFCでは、研究会の情報を得るための全体説明会等が行われていない。経済学部を例にとると、ゼミ全体説明会が開かれており、学年の早い時期からゼミとはどういうものなのか、各ゼミによる紹介から、雰囲気や研究内容等を知ることが可能である。他学部に比べて、SFCは特に多様な研究会が存在し、それがSFCの比類なき特色である一方、多様であるあまり、どのような研究会があるか、学生は全体像を把握しきれないのが現状である。また、現状では研究会に関連する情報が分断されており、学際的な研究を売りにしているSFCだが、学生が横断的に研究会の情報を得る場がない。さらに、研究会は卒業に関わる大変重要なものにも拘らず、学生が独力で自分の興味分野に即した研究会を探すのは容易とは言えない状況である。また、前回の新歓ではゼミ生とゲストとの関係構築が行われると共に意見交換から新しい発想を得るなど双方によっても利益がもたらされる場であると認識した。よって、研究会合同新歓を開催することで、研究会について横断的に情報を得る場、SFC生の研究会決定に役立つ場を提供し、ひいてはSFCの学問・研究活動の活性化を図る。

目的

研究会について横断的に情報を得る場、SFC生の研究会決定に役立つ場を提供し、ひいてはSFCの学問・研究活動の活性化を図る。

具体的施策

開催期日

2023年7月19日(水)、7月20日(木)の18:15~20:00

- 研究会シラバスが公開されるのは例年7月中旬頃、研究会によっては1週間後に募集を締め切る研究会等もあるので、公開されてからできるだけ早めに実施したい。
- 授業最終週の水曜と木曜日の2日間行う。日付・時間帯により参加可能な研究会は異なると考えられるため、可能な限り多くの研究会に参加していただけるために二日構成とした。

開催場所

SFCの教室を予約して行う。1つの教室に10以上の研究会がブースを構えるのは窮屈になってしまうため、2つの教室を両日確保する予定である。また、教室の規模は、作品を置くことも想定し、ε 22など比較的大きな教室を予定、開催形態は基本対面とする(参加応募の段階で、事前に申請があった場合にのみオンラインでの対応は可能とする)。

想定人数:総計70人

前回の新歓と自治会で行ってきたイベントの傾向、またキャンパスに学生が戻ってきている現状を勘案すると、参加学生人数は70人前後だと推測できる。ただこのイベントは、これまで自治会が行ってきたイベントに比べ、学生の関心が高いコンテンツを扱うため、実際の参加人数は想定より増加する可能性も考えられる。

参加研究会:総計15研究会

前回2/3に開催した際に、参加した研究会は7研究会であった。今回の参加研究会は以下の通りである。

[1日目(7/19)]13研究会

加藤文俊研究会

篠原舟吾研究会

小林博人研究会

藁谷郁美研究会

中西泰人研究会

ヴレタオチ研究会

アラブ文化研究会

琴坂将広研究会

武田圭史研究会

藤田護研究会(—SFC Kotan—アイヌ語とアイヌ語口承文学を学ぶ)

安宅和人研究会

清水唯一朗研究会(オーラルヒストリー)

塚原研究会(環境問題研究会)

[2日目(7/20)]10研究会

加藤文俊研究会

篠原舟吾研究会

小林博人研究会

藁谷郁美研究会

中西泰人研究会

ヴレタオチ研究会

アラブ文化研究会

琴坂将広研究会

秋山美紀研究会

藤田護研究会(南からの思考—スペイン語圏の文化と社会)

コンテンツ

研究会ごとにブースを設けて、相談会の場とする

- 相談の形態は各研究会による
- 出展に際しては、学生のみ参加がメイン(研究会担当の先生の臨席は必要ではない)
- 研究紹介展示スペースを用意
- 理工系研究会の制作物、ポスター等の展示のみで参加する研究会も可能
- 研究会側の用意として以下を想定
 - 研究会紹介のスライド
 - 展示可能な成果物(ポスター等の制作物)
- 当該研究会について説明可能な研究会メンバー
 - 参加人員は最低2人、最大で4人程が望ましい
- 参加研究会の募集
 - 基本的にメールで募集
- 一般学生参加フロー 事前応募の枠
 - 参加確認フォームを記入(オンライン参加事前申請を受け付け)
 - 当日参加の枠
 - 当日予約なしで開場にきた学生には入り口で参加確認フォームを記入させる

期待される効果

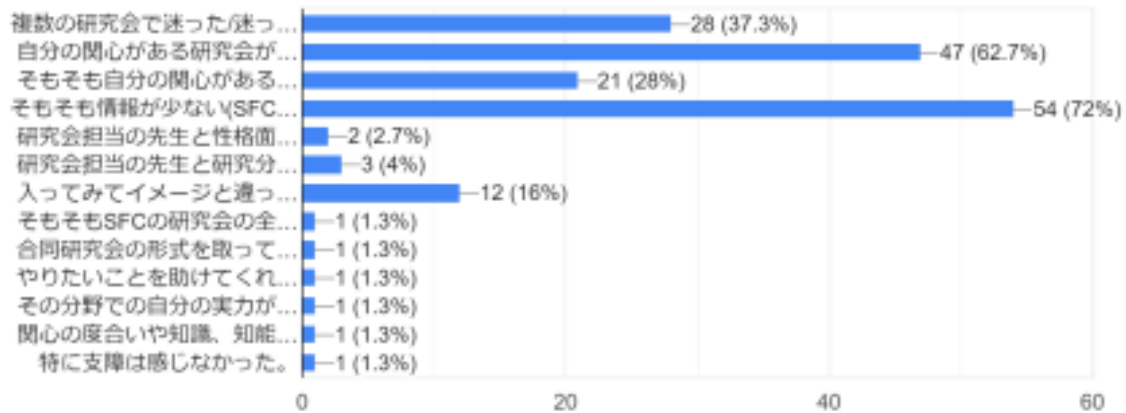
研究会について興味を持っている学生の研究会選びの助けとなる。また、現時点で研究会に入っている学生も新学期からの研究会について相談できる場を提供することで、各学生にとって最適な研究会をマッチングさせる手助けをすることが可能である。また、参加する研究会同士の交流にもつながり、ささやかながらもSFCの学問・研究活動のさらなる活性化にも寄与できることが見込まれる。また、本企画を継続的に運営することで、将来的に学生と研究会の距離を縮める事が可能となる。

参考:SFC生の研究会に関するアンケート(湘南自治会が2021年度秋に実施)

(SFC生からの回答数は75件、先生方からの回答数は24件でした。「SFC生の声」「先生方からの声」は原文をそのまま掲載しています)

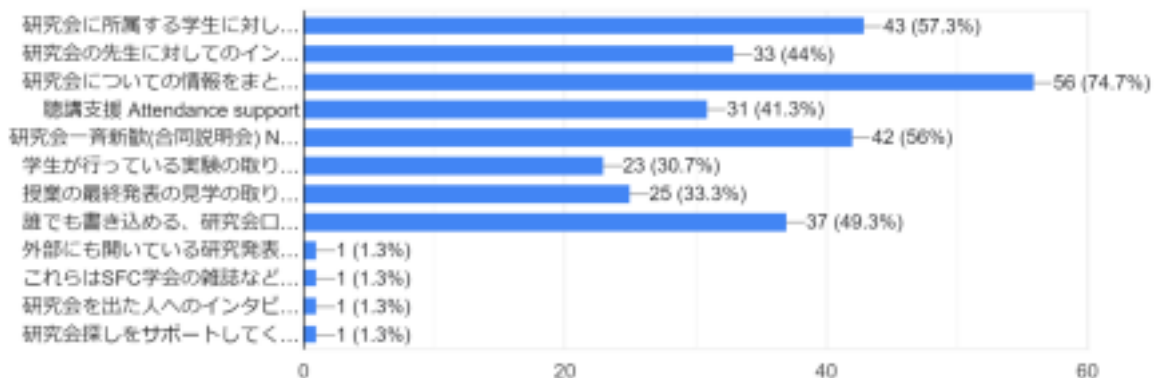
Q4_1 研究会選びの際にどのようなことに支障を感じましたか/感じていますか？ What did/do you find to be a hindrance in choosing a research group?

75件の回答



Q4_3 研究会選びをサポートするコンテンツとしてやってほしいと思う...ease fill in the "Other" column.

75件の回答



SFC生からの声

- 研究会の生の声がなかなか聞けない。
- SFCのキャンパス内で研究会に知ることのできる機会がない(ORFに行かなければ、対面での情報収集の機会がない)
- 聴講を許可していない研究会もあるので、雰囲気かわからない。
- 他学部では研究会の説明会が開かれ、それによって様々な情報を得ているが、SFCはどの研究会が何をやっているのか俯瞰できる機会がない。
- 教授の数が多くて知り得ない研究会が多すぎる。
- 経済学部では、ゼミナール委員会というのがあってゼミに関する様々な情報をHPに掲載している。(http://keizemi-keio.info/wp/2022年度入ゼミ関連ページ/) ゼミ生や教授インタビューページなどがあるので、SFCよりもゼミ(研究会)を選びやすいと思う。こういうサイトが、SFCにも欲しい。

SFCの先生方からの声

- ぜひサポートをお願いしたいのは「研究会に所属する学生に対してのインタビュー」と「研究会一斉新歓(合同説明会)」です。それ以外の項目については以下のとおりです。
- SFCは分野を超えた学びを売りにしているものの、研究会の広報は、やはり分野別に行うのが効率的ではないか
- 総合政策学入門でゲストでしゃべった年は研究会の志願者が激増する。そこで 取り上げるかどうか極めて重要ではないか